

神の家日記

神の家進捗状況

神の家建設委員会
河合恭久

南側（玄関）

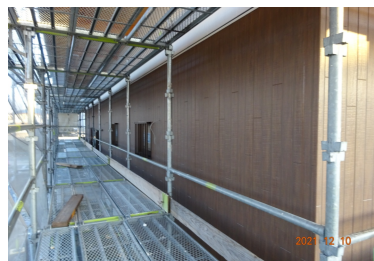
《 外装 》



西側

皆様のまごころの結晶、信徒のおもいたつる苑「三河本苑神の家」の新築工事も着々と進み、瓦葺きも出来上がり、外装の窓、戸井も付きいよいよ内装工事が始まっています。ご神前の神殿の床の張り方の向きに関しても、亀山建設さんがわざわざ綾部の長生殿まで見に行かれ、しっかりとやっていただいています。

また、備品付器に関しましても直心会の方々に協力していただき、使える物はなるべくお金をかけない方向でいます。出来上がる前に三方などを皆様に手伝っていただき、きれいにしたいと思っています。引っ越しを始め、また皆様にこそ奉仕をお願いすると思ひますのでよろしくお願いいたします。



北側



東側

《 内装 》



遷座祭、御三体の神様の鎮座祭に關しては、後日ご案内させていただきます。尚、春の大祭は現在の神前でさせて頂く予定です。より一層のご協力をお願いいたします。



三河本苑だより

2月号

2022.2. No.477

(発行者)

大本三河本苑

〒443-0031

蒲郡市竹島町28-5

TEL 0533-69-7518

FAX 0533-69-1455

【聖師様の愛善の道】

ちはやふる神と人にとにやわらぎて
むつびまじわる和魂かも
来たるべき世にあう時の準備こそ
信仰力にまさるものなし

祭式(三級・四級)認定講習会のご案内

祭務部長 調子真一

●日 時/ 3月5日(土)・6日(日)

●場 所/ 三河本苑

※持ち物/ 笏・大本祭式の本・足袋・筆記用具など

- ・基本動作から月次祭が出来る動作までを実施します。
- ・宣伝使の推薦には祭式3級が必要です。この機会に取得してください。

●27日(日)
分所・支部長研修会●20日(日)
本苑3月月次祭

・全体会議

・直心会・みどり会総会

●5日(土)・6日(日)
祭式3・4級認定
講習会●20日(日)
本苑2月月次祭

3月の行事

2月の行事

尊師さまに学ぶ

特任宣伝使 芝田豊海

執着を去れ

(前編)

「日出庵先生之旧稿(下巻)」より 大正十四年五月十日

失敗を怖れてせぬよりは、思つままを常に大膽に率直に実行する方が遙かによい。霊は無形のもので常に形をとらうとせんとあせつてゐる。これに言ひ形を興(あたへる)のが人間のしごとだ。自分自身には単にホンの僅かの気持ちとして保たれてゐるに過ぎないことでも、これをそのままに捨ておいては遂に形を成すに至らず、いはば墮胎(だたい)に終わることが往々である。で、我らは常にドンドン積極的になるようにさえすれば従つて内に意識的または無意識的に含んでゐる霊流がドンドン外に流れ出して茲(ここ)にある具体化とな

に果たすことは出来ない。身魂の汚れている間は何となく幕を隔てて物を見るような、やるせないものかしい気持ちで悶々とし勝たぬ。純潔な自己そのものに帰ろうとせば、先ず向うにしても内外両心の苦斗(くとう)を経た上でなくてはならぬ。神から興えられた直霊魂に省てよくその場のままに善悪を知りて決意のままに進むようにせねばならぬ。一切を大局的に神意と解して有難く面白く瞬間々々のベストを尽くすより外はない。人は誰でも自己独特の使命を天から享(う)けているのであるから、とに角心の底から為(な)したくて為(な)して堪(た)まらぬことはドシドシとやるべきであり、又やらすべきである。そしてまた途中でこれは不可(いか)んと気付いたな

らば躊躇(ちゆうちゆう)なく道をほかえ変えたらよい。いつまでも小さい事に囚(こ)われてクヨクヨしているようでは自らそこに一種の牢獄を造つて我自らを閉じ込めているようなものである。霊界よりみれば、要するに凡てはさせられてゐるので、人間が偽(いつはり)てゐると思ふのはその外観だけなのである。

人間の内的要求はこれ悉(ことごとく)く霊界の内流によつて必然的起るものであつて、人間はその内流の活きたる所受器(うけが)きたるにすぎない。このことが十分理解されねば、どうしても人は霊的生涯に入ることはできない。

霊的生涯というのは、現界にいながら物事すべて内的に解するに至る生活の段階である。

「肉体のあるうちに靈魂をみがけ」

「瑞祥新聞」大正14年7月21日

特任宣伝使 松永孝司

聖師曰く、この世は涙の国である。苦しみのある家である。悪魔の世の中である。夢の浮世である。今日栄えて明日は亡ぶる世の中である。しかし大神の御心にかない、誠の道を歩む者にはこの上もなき喜ばしき樂しき世界である。この世ぐらいけつこうなところはなないのである。

霊ばかりになつて神で暮らすよりも、肉体をもつて心を神にまかせ、誠を貫き、一日なりとも長く生きて、世のため道のためになることをのこすが、人と生まれし本分である。

肉体はかぎりあるものである。このかぎりある肉体の生命のあるうちに靈魂をみがきあげて、いつまでもかぎりなき霊の生命の国にいたる用意をなさねばならぬ。霊の国へ行くべき用意さえあれば、若くして死すとも惜しきことではなく、たとひ百歳をこゆるも、高天原へ救わ

信仰覚書

出口日出庵 著 第七巻(P128)

面倒と犠牲をおしむな

すべて性急に物ごとを作りあげようとするとは必ず失敗する。赤子を育てあげるような気持ちと態度で、慈愛ぶかく忍耐強く、一段々々の成長を楽しまねばならぬ。面倒と犠牲とをおしげなく提供する人でなくてはならぬ。

また、物ごと自体の必然的發展の階段を無視してはならぬ。樹木は樹木として、人間は人間としての、それぞれ独特の發展の階段を持ていて、樹木に人間の理想を強いてはならず、また、人間に樹木の理想をもつてきては困る。

階段をとび越えて發展を企画することも、あきらかに間違ひである。

たとえば、双葉の時代なしに、ただちに普通の葉や枝を作らんとしたり、花が咲くことなしに(言いかえれば、生殖作用なしに)ただちに果実を得ようと欲するようなことは、考えはよいが出来ない相談である。

連載 大本之ぼれ話